

## 開会あいさつ

埼玉県合同輸血療法委員会 代表世話人 前田 平生

皆さん、こんにちは。紹介がありましたように、埼玉県の合同輸血療法委員会の世話人代表をしております、前田でございます。今日は、週末の貴重な時間にお集まりいただきまして、ありがとうございます。

この輸血フォーラムというのは、年に1回、今年で4回目になるわけですが、埼玉県における輸血療法を安全に、適正に行っていくということを目的にしております。

ただ、この委員会が発足してから、ちょうど時期を同じくするように、血液センターの方も、広域ブロック化というようなかたちで組織再編が行われてきました。今年にはだいたい一段落ということですので、これまでの安全と適正に加えて、円滑に血液製剤が供給できるかということも、新たなテーマとして、今年はともかくとして、来年からはそのようなテーマを加えていきたいと思っております。

今日のプログラムですが、いま申し上げました三つのテーマにそいまして、1番目は、輸血業務検討小委員会の方から報告をお願いしております。

2番目は、血液供給あるいは血液不足とも関係するのですが、自己血輸血に関しまして、埼玉県でも昨年、自己血輸血に関する小委員会というのを立ち上げまして、実際に昨年度、自己血輸血研修会というの、すでに開催をしております。この小委員会のメンバーでもある村上先生の方から、自己血輸血についての活動状況の報告をお願いしております。

3番目は、恒例なのですが、輸血学会では全国調査が行われておりますので、その埼玉県分につきましては、私の方から報告をしたいと思います。

これは、2011年の報告になりますが、この時にはもうすでに大量輸血の症例が集まっておりますので、それにも少し触れられるかなと思っております。

次いで、これも埼玉県内で先行して実施してきたことですが、大量輸血例の、輸血前のフィブリノゲン値の調査ということについて、今年もそれを行っておりますので、大久保先生の方から、その調査結果について報告をしていただきたいと思います。

最後になりますが、特別講演として、大量出血に対する最適輸血療法という内容で、国立循環器病研究センターの宮田先生に講演をお願いしております。

大量出血、輸血に関しましては、今般ようやく厚労省の方で班会議が立ち上がりました。宮田先生自体が、その班会議の班長を務めているということもございまして、非常にタイムリーだったと思っております。

私自身も、やはり大量出血の制御ということは、患者救命に関してはもちろんのこと、血液製剤の節減、あるいは献血血液の有効利用というような観点から、将来の、これからの輸血の転換点になるテーマだと思っております。

これから長時間になりますけれども、活発な議論をお願いしたいと思います。どうぞよろしく願い致します。